

## 共に歩み

浪江町長 馬場 有

師走を迎え、1年の締めくくりや新年に向けての準備が始まるなどなにかと気ぜわしい時期となりました。

町は、「復旧実現期」の最終年度にあたるこの一年、さまざまな取り組みを進めてきました。特に、下半期は町内での取り組みが目に見える形となり、町民の皆さまと共に着実に復興へ向けて歩み始めていることを実感しています。

復興の目玉である仮設商業共同店舗施設「まち・なみ・まるしえ」のオープニングセレモニーへ出席した際に、なみえ焼そばを食べましたが、震災後初めて町内で食べる出来立てのなみえ焼そばは、また格別に美味しく感じました。ぜひ、たくさんの方に利用していただき、交流を深めながら、浪江の懐かしさや雰囲気を楽しみ、町の復興の様子を感じていただきたいです。

今年、浪江町は合併60周年を迎え、10月9日に記念式典を町内で震災後初めて行いました。来場者からは、「花火大会や十日市もぜひ浪江で開催してほしい」という声をいただき、私としても、十日市のような祭りを再び開催できるよう今しっかりと町の再生を行い、次の代に浪江町を繋げていきたいと改めて心に刻み、その浪江町の姿を見せることでこれまでお世話になった方々への恩返しにもなると考えています。

町は、来年度からの5年を「本格復興期」と位置付けており、これからがまちづくりの正念場となってきます。現在、避難指示解除に関する有識者検証委員会からの報告のあった16の課題について、避難指示の解除目標としている29年春までに、解決できるよう、各種取り組みを進めています。中でも、インフラ・生活環境・住環境の整備、そして除染・放射線対策の課題解決をしてい

かなければなりません。特に、除染に対しては町民の皆さまから不安の声もあることから、町としては今後も徹底的な除染、フォロアップ除染の実施を国へ継続して要望しているところです。

また、課題の一つである住環境の整備では、現在、復興公営住宅への入居などが進んでいます。仮設住宅から復興公営住宅へ移られた方で、これまでの繋がりがなくなり、新たな居住先で孤立してしまうことを危惧しています。今後は、交流会を開催し、浪江町民同士の交流の場を提供するなど、他市町村とも連携した対策を講じる必要性があると考えております。

復興は、町行政だけでは成し遂げられません。行政、町民など浪江町に関わるたくさんの方の協力があつてこそ復興を進めることができると考えており、人とのつながりを大事にし、信頼関係を築きながら、町の創建を目指していきます。

体には十分ご自愛し、健やかなる新年をお迎えになられますよう、心よりお祈り申し上げます。

## 復旧漸進

2016年を表す言葉を町長より直筆でいただきました。

「復旧漸進」とは、この1年間、町はインフラ・生活環境整備・放射線対策などの復旧作業を重点的に取り組んできました。時には、スムーズに事業が進まないという困難な状況でも、課題を一つ一つ検証しながら、復興へ向けて歩み始めているという町の姿勢を表したものです。